

2018.6.10 年間第10主日

わたしの母とはだれか

マルコによる福音 3:20-35

(そのとき) イエスが家に帰られると、群衆がまた集まって来て、一同は食事をする暇もないほどであった。身内の人たちはイエスのことを聞いて取り押さえに来た。「あの男は気が変になっている」と言われていたからである。エルサレムから下って来た律法学者たちも、「あの男はベルゼブルに取りつかれている」と言い、また、「悪霊の頭の手で悪霊を追い出している」と言っていた。そこで、イエスは彼らを呼び寄せて、たとえを用いて語られた。「どうして、サタンがサタンを追い出せよう。国が内輪で争えば、その国は成り立たない。家が内輪で争えば、その家は成り立たない。同じように、サタンが内輪もめして争えば、立ち行かず、滅びてしまう。また、まず強い人を縛り上げなければ、だれも、その人の家に押し入って、家財道具を奪い取ることはできない。まず縛ってから、その家を略奪するものだ。はっきり言っておく。人の子らが犯す罪やどんな冒涇の言葉も、すべて赦される。しかし、聖霊を冒涇する者は永遠に赦されず、永遠に罪の責めを負う。」イエスがこう言われたのは、「彼は汚れた霊に取りつかれている」と人々が言っていたからである。イエスの母と兄弟たちが来て外に立ち、人をやってイエスを呼ばせた。大勢の人が、イエスの周りに座っていた。「御覧なさい。母上と兄弟姉妹がたが外であなたを捜しておられます」と知らされると、イエスは、「わたしの母、わたしの兄弟とはだれか」と答え、周りに座っている人々を見回して言われた。「見なさい。ここにわたしの母、わたしの兄弟がいる。神の御心を行う人こそ、わたしの兄弟、姉妹、また母なのだ。」

説教

サンドイッチはトランプゲームに夢中になっていたある伯爵がゲームの最中でも食べれるように具材をパンにはさんで食べたことが由来になっているという話を聞いたことがあります。

きょうの福音はマルコの差込構造などと解説されることがあります。この差込はマルコ 5:21-43「ヤイロの娘とイエスの服に触れる女」11:12-25「いちじくの木を呪う」14:1-11「ベタニアで香油を注がれる」にもあります。いずれもちょっとわかりづらい福音となっています。

さて、マルコの差込をサンドイッチになぞらえてみましょう。パンは「おしよせる群衆」具その1は「イエスの身内」その2は「エルサレムから来た律法学者」です。

イエスは律法学者に対してはサタンはサタンを追い出せない。悪党はまず頭をやっつけないと悪に勝つことはできないといえます。身内、家族に対しては血縁は大事ではない、神の御心を行う人こそわたしの家族だといえます。ドラマや映画ですと最強の敵はさいごの戦いでこらしめます。そうじゃないとはなしのおさまりがつきません。でも実際の戦闘のセオリーでは最初に戦うのは最強の相手と聞いたことがあります。その意味合いでイエスは戦闘戦術をよく理解して律法学者に反論したといえます。

いっぽう家族に冷たい態度をとっています。イエスの生涯やその後の教会のことを知っているいまのわたしたちはイエスは母親をうやまい、イエスの兄弟もイエスの教会に貢献したことを知っているのです、どうしてこんなこというかな？と疑問を持つところです。

イエスは、「わたしの母、わたしの兄弟とはだれか」と答え、周りに座っている人々を見回して言われた。「見なさい。ここにわたしの母、わたしの兄弟がいる。神の御心を行う人こそ、わたしの兄弟、姉妹、また母なのだ。」マルコ 3:33-35

つけんどんに、彼らは家族ではない、そばにいるあなたたちこそが家族だと明言しています。血縁ではなく魂、聖霊で結ばれたものが真の家族だとい

う意味です。原理原則はそうなんでしょうが、これじゃ身も蓋もありません。
いまの教会でこれをいったらカルト集団です。

律法学者とのベルゼブル論争そして家族の無理解を、おしよせる群衆で挟む
ことでマルコはイエスの教えをことばと行いの全体として記録しています。
おしよせる群衆はイエスを称賛して押し寄せているわけではなく、病気を治
してもらいたいだけかもしれません。逆に、律法学者たちの間でもイエスの
教えに耳を傾け、回心する者もでてきます。最初のうちはイエスの言動にと
まどい、反対した家族もイエスへの理解が深まりさいごはイエスに従うよう
になっていきます。群衆もまた十字架につけろと叫びましたが、ペンテコス
テの日には回心する様子が記録されています。サンドイッチにたとえるなら
ば聖霊によってサンドされる、挟み込まれるというイメージです。聖霊で満
たされる一週間となりますように。